

+Affiliated with the International Association  
 THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI  
 Chartered October 30, 1994



〒194-0211  
 東京都町田市相原町1857  
 長谷川 あや子  
 TEL & Fax: 042-771-6962  
 E-mail: ayako.h3@nifty.com

2026年5月

The Service Club of The YMCA

第371号

## 東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	長谷川 あや子	国際会長 エドワード・オン (シンガポール) 主題「信念、愛、行動」
副会長	久保田 貞視	スローガン「共に、より強く」
書記	小口 多津子	アジア太平洋地域会長 田上 正 (熊本むさし) 主題「信念と愛を持って行動しよう！」
会計	稲葉 恵子	スローガン「YMCA、ユースと共に地域社会に貢献しよう」
直前会長	並木 真	東日本区理事 山下 真 (十勝) 主題「ワイズのらしさ再発見」
担当主事	西嶋 健太	スローガン「Change!」
ブリテン	山本英次 大久保重子	あずさ部部長 山口 直樹 (東京武蔵野多摩) 主題「垣根を低くし、活発な活動を」
		八王子クラブ会長 長谷川 あや子 主題「若い人の成長を願い、ともに歩む」

### 2026年5月第一例会プログラム 中央大学ひつじぐも新入生歓迎・ 草刈り&BBQ

日時: 5月16日(土) 10:00~13:30  
 (担当C班:並木(信)、西嶋、大久保、山本)  
 会場:「高尾の森わくわくヴィレッジ」  
 八王子市川町55 TEL.042-652-0911  
 JR高尾駅北口バス「高尾の森わくわくヴィレッジ」行き  
 (バス発車時刻 “9時5分” or “9時35分”)  
**プログラム**  
 ・10:00 4階学習室集合  
 ・10:00~10:30 \*開会 挨拶:長谷川あや子会長  
 オリエンテーション・参加者紹介  
 終了後 ファイアープレイスに移動  
 ・10:30~11:30 ファイアープレイス周辺の草刈り作業  
 ・11:30~13:00 グループに分かれて昼食・BBQ  
 ・13:00~13:30 片付け  
 ・13:30 閉会・現地解散



### ひつじぐも新入生歓迎BBQ大会

先月の例会ポイント (4月)			
在籍	11名	切手	計 0g
メン	8名		
メイキャップ	2名		
出席率	91%	現金	0円
メネット	1名	スマイル	9,600円
ゲスト	1名	累計	99,250円
ビジター	1名		
ひつじぐも	0名		

今月の聖句 (2026年5月)  
 私たちはキリストの使徒として重んじられることができたのですが、むしろ、あなたがたの間で、幼子のようにになりました。母親がその子どもを慈しみそだてるように、あなたがたをいとおしむ思いから、私たちは神の福音だけでなく、自分の命さえも喜んで与えたいと願ったほどです。あなたがたは私たちの愛する者となったからです。  
 (テサロニケの信徒への手紙一 2:7-8 聖書協会共同訳)

# 巻 頭 言

## あずさ部第2回評議会を担当して

### 八王子クラブ 会長 長谷川あや子

4月18日、あずさ部第2回評議会が新緑の高尾の森わくわくビレッジで行われました。2024年2月の「桑都評議会」から2年ぶりのホストクラブとして開催準備を重ねました。今までの評議会はネーミングがあり、それを考えるの



も楽しかったのですが、今年度は第1回、第2回のみとなりちょっとガッカリ・・・2006年に八王子市が日本遺産になったことから

「日本遺産評議会」にしたかったのです。

高尾の森わくわくビレッジで行う時にはいつもですと16時半頃、懇談の時間に「わくわく御膳」を頂いていたのですが、今は17時半からの提供ということで食事はあきらめ、何かお菓子をとっていた時でした、「能登のお菓子はどうか」という提案があり、全員大賛成、買って応援しようということになりました。早速、東京YMCAの熊沢さんに手配を頼みました。あの「塩ゴーフレット」は美味しかったですね。参加費500円と決めたのもよかったです。

評議会に入る前に「ユース報告」の時間があり、「ひつじぐもの活動」を委員長の霞ひかるさんから、「日韓交流プログラムに参加して」を小倉美柚さんに報告して頂きましたが、簡潔に余すことなく伝えて下さり素晴らしいものでした。

#### 〈議案審議〉

第一号議案—2026-27年度あずさ部部長活動方針の承認の件。第二号議案—2026-27年度あずさ部役員承認の件。第三号議案—2026-27年度あずさ部予算承認の件。第四号議案—2027-28年度あずさ部部長承認の件。すべてが承認されました。

#### 〈あずさ部CS・Yサ事業助成金〉

甲府21クラブ—ベビーカーコンサート7万円。  
富士五湖クラブ—フライングディスク大会9万円。  
甲府やまなみクラブ—やまなしグローバルフェスタ4万円が贈呈されました。

#### 〈グループでのシェアタイム〉

四つのグループに分かれてあずさ部について大いに語り

合いました。どのグループも活発で笑い声もあり楽しいひとときでした。

今年度は2回の評議会だけで顔と顔を合わせる交流が少なかったのは残念でしたが、前例に囚われず簡素化できるところは簡素化し、誰でも部長を担えるという仕組みも大切でしょう。今回ホストクラブを担った八王子クラブは準備に気を使った面もありますが、責任のある立場を与えられることによってクラブの絆が強められたと感謝の思いを深くしました。皆さま、お疲れさまでした。



## ユース報告： 中央大学「ひつじぐも」の活動紹介

委員長 霞ひかる

### 組織概要



- ・所属: 学生 YMCA(東京では立教大学 YMCA など他団体も存在)。中央大学の学生 YMCA として活動。
- ・メンバー構成: 例年 100 人を超える大規模団体。

・新歓時期: 学年が変わる時期に1年生の勧誘を2・3年生中心に実施。

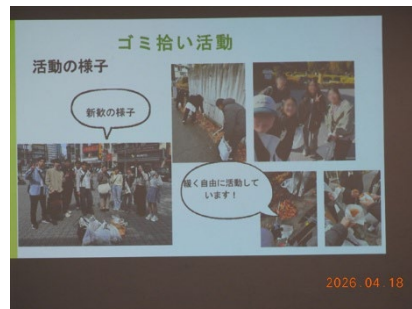
・活動頻度と場所

・活動頻度: 月に3~5回。

・活動場所: 八王子、多摩市、中央大学法学部キャンパス(茗荷谷・池袋)。

### 具体的活動(学生主導と協力イベント)

\* ごみ拾い活動



学生のみで「ゆるく」実施。学校の様子や努力していることを話しながら清掃。事例: 先週池

袋で今年度初の新歓ごみ拾いを実施。1年生約5名参加。昨年は多摩センターで実施後に今川焼きを購入して食べるなど和やかな雰囲気。

\*児童館活動

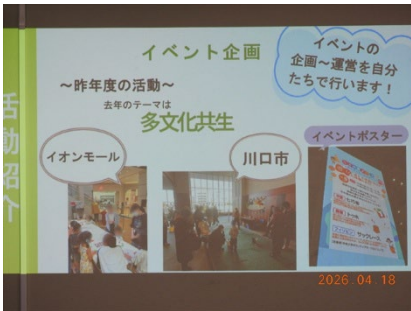


三沢児童館(高幡不動駅近辺)に月2回程度訪問し、子どもと遊ぶ学生ボランティア。事例: こどもまつりへの参加、去年のハ

ロウィンで菓子配布。

\*多文化共生イベント(川口市と協力)

川口のイオンモールや川口市役所で多文化共生をテーマにイベント企画運営。ポスター掲示例: イオンモールでのイベントポスター。主催に中央大学(ジェサクリスト事業部と表記)



等。

歴史と頻度: 約3年前に先輩が開始。半年に1回の恒例行事へ。今年も10月頃に川口イオンモールで実施予定。現在企画検討中。

YMCA 関連参加

YMCA 主催イベントに学生ボランティアスタッフとして参加(会場準備、司会進行、炊き出し等)。関東学生YMCA オリエンテーションに半年に1回程度参加し、東日本地域の学生\*\*YMCA 所属大学生と交流。

国際スタディツアーの紹介と参加者派遣。グローバルスタディツアー in タイ(横浜 YMCA 主催) 参加実績: 毎年2~3人が参加。報告者自身も大学1年夏に参加。

行先: チェンマイ、タヤオ(ミャンマー・ラオス国境付近)。期間: 約2週間。

目的: 現地の課題学習、孤児院訪問と子どもとの交流。

\*情報発信

Instagram で活動紹介・報告を頻繁に投稿。フォロー推奨

ユース報告: 日韓交流プログラム詳細 法学部法律学科3年(ひつじぐも) 小倉美柚

実施期間: 2026年2月26日~2026年3月1日

事前学習(オンライン、2回)

- AIとの向き合い方について全員で議論。事前アンケートに回答し、その内容をディスカッション
- より深めたディスカッションを実施。渡航前に知識を補強

参加者構成

日本側: 14人(中央大学から2人)。他大学: 筑波、立教、九州大学、熊本、京都大学など。

韓国側: 11人 合計:

25人

テーマ:

「AI時代における私たち私の平和、世界の平和。」

プログラム内容と進行

1日目: アイスブレイク

日本側・韓国側がゲームを用いて交流。自己紹介を含む、お互いを知るゲーム

2日目(午前): 故郷紹介

個人で約5分の故郷紹介スライドを作成し、グループ内で発表。各グループ代表が全体発表。初対面同士で相互理解を促進。

ナショナルレポート(焦点テーマと議論)

焦点1: 不確実性が常態化した社会で、韓日大学生が



未来の選択の問題ではなく「生存の問題」として捉えるようになった理由。

焦点2: SNSプラットフォームやAIの推奨アルゴリズムが、若者の比較による劣等感、燃え尽き症候群などをどのように構造化・増幅しているか。

形式: 韓国側・日本側が各40分程度のレポート発表後、ディスカッション。

事前アンケート所見: 「AIが発達する中で将来に不安があるか」に対し、約3分の1が不安ありと回答。

まとめの一部: AI発展による仕事の自動化で雇用が減少し、特に若者雇用が低下。将来選択ではなく「生存」と

しての問題意識が増加。社会安定のため、支え合いの環境作りが必要。日本では「育て上げネット」、韓国ではニート支援の動きが見られる。

は器の熱さ等の理由で持たないのが一般的。

### 文化交流



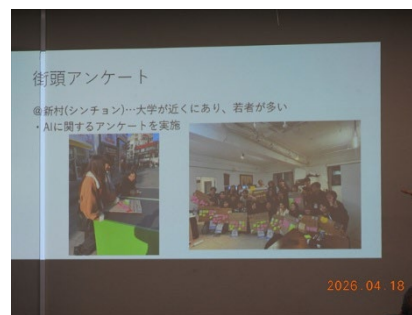
担当: 日本チームと韓国チームが各1時間。日本側の実施内容: けん玉、福笑い、コマ、折り紙、着物の着付け、主めくりの紹介・

体験。反応: けん玉とコマが韓国参加者に人気で大盛り上がり。最後に日本のお菓子をプレゼントし好評。

### 3日目: フィールドワーク

目的: 韓国传统文化に触れる、韓国の若者の過ごし方を体験、日本との違いを見つける。

- 訪問先: 景福宮、カフェ、スーパー。
- 景福宮: チマチョゴリを着る観光客が多数。安価にレンタルし当時の雰囲気を楽しめる。
- カフェ文化: 日本以上に多数存在。日本にないチェーン店も多い。実際にカフェを訪問。
- コンビニ・スーパー: 「プラスワン」文化(同一商品を2個買うともう1個もらえる等)。レジで追加を案内される事例が複数回。日本にない有益な文化と認識。
- 交通安全: 横断歩道前の足元に信号機の色を知らせるライン。歩きスマホ事故防止のため、足元表示で色認識を支援。
- 街頭アンケート



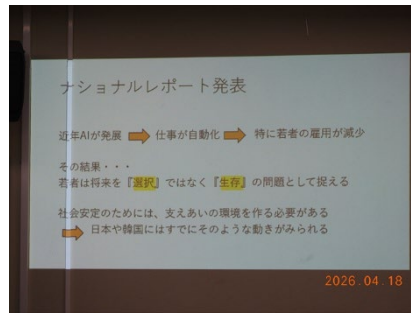
事前にボード作成。新村(シンチョン、大学が近く若者が多いエリア)でAIに関するアンケートを実施。難易度の高い質

問があり、断られる場面もあったが、実施に成功。

### \*学びと気づき

- 英会話能力の必要性  
公用語が英語。翻訳機のタイムラグや会話の即時性の課題から、円滑なコミュニケーションには英語力が不可欠と実感。
- 異文化理解の重要性  
初の海外渡航で、直接触れることで相互尊重につながると理解。  
具体例: 日本では茶碗を持つのが行儀良し、韓国で

- 相互尊重の重要性  
初対面が多い共同生活で、相互尊重が不可欠であると



学習。韓国への興味が増大。海外における日本文化の展開(セブンイレブンの存在、日本アニメキャラクター商品、日本のお菓子の流通)への関心。



質問  
[挿入質問/困惑]  
次の取り組み  
・2026-10頃予定の川口イオンモール多文化共生イベント  
企画詳細を固

- め、運営体制・役割分担・広報計画を作成する
- 三沢児童館の月2回活動  
年間計画(行事対応、季節イベント、教材準備)を策定する
- 新歓期の勧誘計画  
更新し、1年生の参加拡大に向けた説明会・体験活動(ごみ拾いなど)を月3~5回の枠内で設定する
- 英会話力向上  
ひつじぐも内で週次英会話練習会を試行し、日韓交流や国際ツアー参加者の事前研修に組み込む
- 次回国際交流プログラムの準備  
事前学習(AIとの向き合い方、SNSアルゴリズムの影響等)の教材を整備し、事前アンケート設計を改善する
- 比較文化レポートの作成  
フィールドワークで得た安全・文化観察(足元信号ライン、プラスワン文化等)をまとめ、共有する
- 情報発信  
Instagram等の公式アカウントで今回の報告内容を整理して発信し、地域・YMCA関係者への周知を図る

## 4月例会 卓話報告

### 「日本の政治・外交と平和運動の交差点」

講師：大谷 博愛 氏（拓殖大学名誉教授）

4月の例会では、政治学がご専門で、RCA会でも長年ご活躍の大谷博愛先生をお招きしました。折しも第51回総選挙後という極めて重要な時期に、「日本の政治・外交と平和運動の交差点」と題し、今の日本が抱える課題と、私たち市民が進むべき道について、約1000兆円を超える国債残高や立憲主義の危機といった具体的なデータを交えながら、情熱あふれるお話を伺いました。



#### 1. 聖句に導かれた平和への祈り

卓話の冒頭、マタイによる福音書11章28-30節「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい」という言葉が朗読されました。現在、世界では残酷な殺戮や弱者の苦しみが絶えません。大谷先生は、こうした重荷を負うすべての人々の休息を祈念し、ワイズメンズクラブの活動そのものが、平和への確かな第一歩になることを確認することから講義を始められました。

#### 2. 国内政治の現状と「立憲主義」の危機



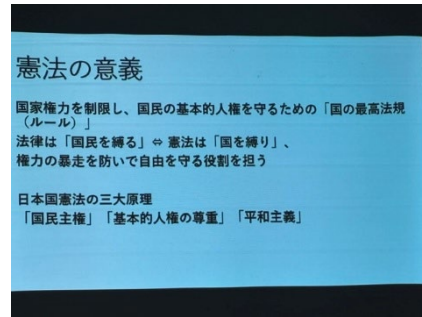
先生はまず、直近の総選挙を制度的な観点から分析されました。自民党が議席数で「圧勝」した背景には、小選挙区制特有の「得票率と議席数の乖離」という制度的歪みがあることを指摘。また、首相による解散権の行使が「専権事項」であるかのように扱われる現状や、財政的裏付けのない人気取り政策が、将来的に国民負担を増大させるリスクを批判的に検討されました。

特に強調されたのが「立憲主義」の重要性です。「憲法は国家権力を縛るためのもの」という原点に立ち返り、閣議決定のみで集団的自衛権の解釈を変えるような手法は、法の支配を逸脱する危うさがあること。さらに、言論の

自由を脅かすような政治的圧力に対し、メディアの批判機能が低下している現状へ強い警鐘を鳴らされました。

自由を脅かすような政治的圧力に対し、メディアの批判機能が低下している現状へ強い警鐘を鳴らされました。

#### 3. 主体的な外交と「被爆国」としての使命



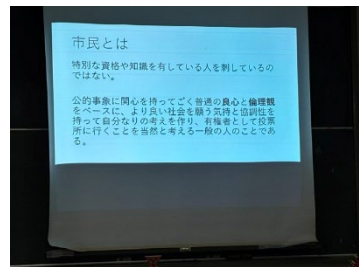
外交面では、日本の主体性の欠如が議論の焦点となりました。

●対米追従からの脱却：米中関係の実態を冷静に捉え、

日本が冷戦的な認識に留まるのではなく、独自の対話回路を持つ必要性を説かれました。

●平和のブランド化：憲法9条を持ち、唯一の戦争被爆国である日本は、核兵器禁止条約への姿勢を見直し、非核三原則を堅持し続けることで、世界に「平和外交」をリードする資格があります。2024年の日本被団協のノーベル平和賞受賞という追い風を活かし、日本の平和志向をデジタル技術で世界へ発信する戦略を提言されました。

#### 4. これからの平和運動——



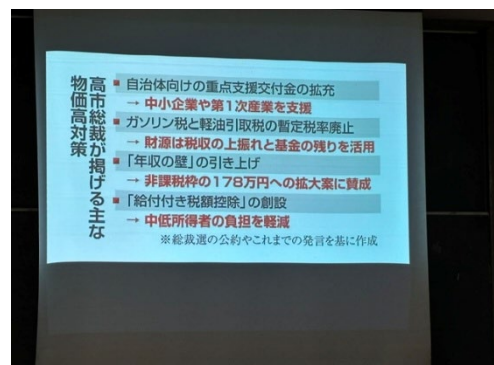
若者と繋がる

「No War」の旗印  
最後に、私たち市民が明日から取り組める「平和運動の設計図」を提示されました。

●超党派の連帯：思想や宗教の垣根を越え、

「戦争をさせない(No War)」というシンプルな旗印のもとに市民が連帯すること。

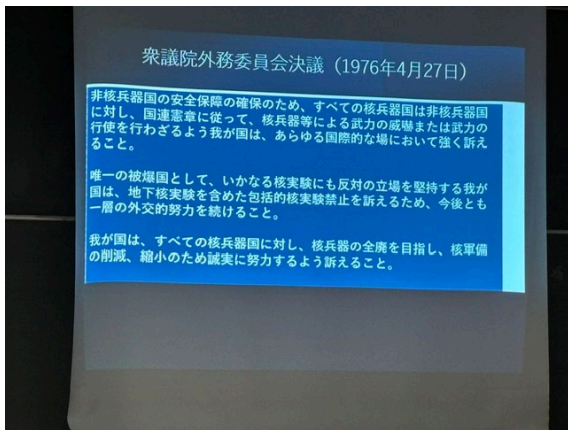
●可視化の力：署名活動に留まらず、音楽やパフォーマンスを融合させた「若者が参加したくなる平和デモ」を設計すること。可視化されたアクションこそが、政策決定に強い影響を与えます。



●情報ハブの構築: YMCA やワイズのネットワークを活用し、平和活動のスケジュールや正しい情報を共有する「ハブ」となること。

おわりに——「久遠の理想」を行動に

大谷先生は、「民主主義とは権力を法の下に置くことである」という原点を今一度噛み締めるよう呼びかけられました。改憲推進の動きや、一強体制下での権力行使を批判的に監視しつつ、私たちは「久遠の理想」を胸に、平和のために具体的に動き出すことが求められています。次世代を担う若者たちと協働し、大きなムーブメントを形成していくこと。それこそが、今私たちに託された使命であると感じ入った次第です。



## W4W 活動報告

ユース担当 並木 真

4月25日(土)の例会前にW4W運動、事務所前に16:00集合、17:00まで北野町近辺のゴミ拾い。

新歓イベントが重なり、中央大学YMCAひつじくもの参加はありませんでしたが、いい天気で例会前に気持ちよくゴミ拾いを行うことができました。

今年は、北野駅近くを流れる湯殿川に沿ってゴミ拾いを行いました。北野駅周辺の歩道はあまりゴミが落ちていないのですが、川の周辺はポイ捨てのゴミが散見されました。拾った量(約5kg)はあまり多くありませんでしたが、八王子ワイズメンズクラブの黄色のジャンパーが目立ち、行きかう人にはポイ捨て禁止のアピールは出来たと思います。



## 今月の聖句に寄せて (2026年5月)

●まぼろしのかげをおいて (讚美歌 510 番)

♪汝(な)がためにいのる母のいつまで世にあらんとわに悔(く)ゆる日のこぬまに、とく神にかえれ  
春は軒(のき)の雨 秋は庭の露(つゆ)  
母はなみだ乾(かわ)くまなく  
祈ると 知らずや (4番より)

私の母は歌の好きな人でした。入院するまで「童謡の会」に属し、歌い続けていました。上記の讚美歌は、私の幼い頃より母がいつも口ずさんでいた歌で、いまだに耳の奥に残り、風呂に入っているときなど、知らずに口ずさんでしまうそうです。

6歳の時、父親が亡くなり、母親は他家に再婚させられて、4歳の妹と二人、別々の叔母の家に引き取られた母は、実の母親の愛情を知らずに育ちました。叔母を「お母さん」と呼ばされ、従弟妹の世話をした母にとって、実の父母に抱かれる家族というものは夢であったようです。それだけに、家族愛が強く、結婚後も持病を抱える父のかわりに、手芸で生計を助け、4人の子どもを、他所の子どもに引け目を感じさせないように必死に育てた母でした。子どもが成人してからは、高齢者や視覚障碍者の方々と交わり、ボランティア活動に打ち込み、家では、間断なく手指を動かし、小学校や、子供会にプレゼントする手芸品の小物の制作に余念がありませんでした。

そんな母が愛読していた、渡辺和子さんの著書、「心に愛がなければ—ほんとうの哀しみを知る人—」の次の箇所はボールペンで傍線が引かれてありました、

「自分のペースに合わせるのではなく、相手のニードとペースにこちらが合わせていく」ということ。ボランティアは決して、してあげるものでなく、させていただくものだという  
こと。忘れられない言葉がある。「自分の傷をいやす最良の薬は、他人の傷にほりたいを巻くことだ」

母の日を前に、9年前に99歳で永眠した母の、ありし生き方を思いおこすことしきりです。

今年の母の日は、5月10日です。

並木信一



## 高尾わくわくビレッジ便り

館長 西嶋健太

若葉がまぶしく、爽やかな風が心地よい季節となりました。皆さまには、日頃より高尾の森わくわくビレッジの活動に温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

4月より、高尾の森わくわくビレッジは東京YMCAの一拠点として新たな歩みを始めました。それに伴い、東京YMCA内での人事交流や研修の機会も活発になっております。4月には、当館の現場職員が「キャンプディレクタートレーニング」に参加し、YMCAキャンプの理念や指導方法、安全管理などについて学びを深めました。施設運営だけでなく、人を育てる働きについても理解を深める貴重な機会となりました。

また、この春から新たな仲間も加わり、わくわくビレッジは新体制でのスタートを切っております。新職員たちは、日々の業務や利用者との関わりの中で多くのことを学びながら、一步ずつ成長しております。先輩職員も互いに支え合いながら、新しい風を感じる活気ある毎日となっています。利用者の皆さまを温かく迎える姿勢を大切にしながら、より良い施設づくりに努めております。

さらに、4月に開催した全体職員会では、東京YMCAが掲げる「TOKYO YMCA VISION150」について学び、意見交換を行いました。「これからの地域社会の中で、わくわくビレッジに何ができるのか」「子どもたちや地域の方々に、どのような価値を届けていくべきか」など、職員それぞれの視点から多くの意見が交わされました。自然体験活動の充実や地域とのつながり、新しい学びの場づくりなど、さまざまなアイデアが挙がり、職員一同にとって大変良い学びの時間となりました。

新緑に包まれるこの季節、自然豊かな環境の中で子どもたちや利用者の皆さまを迎えられることに感謝しております。



す。これからも高尾の森わくわくビレッジは、人と人がつながり、学び合い、成長できる場として歩みを進めてまいります。今後とも変わ

らぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ひつじぐも便り

中央大学総合政策学部3年の霞ひかる

最近はやかい日が続き、キャンパスにも少しずつ初夏の雰囲気を感じるようになってきました。新年度が始まってから早くも1か月が経ち、ひつじぐもでも新歓活動を中心に慌ただしい日々を過ごしています。

4月には新歓ゴミ拾いを池袋と立川の2か所で実施し、多くの新生参加してくれました。実際に一緒に歩きながら話してみると、「大学では新しいことに挑戦したい」「ボランティアをやりたい」など、それぞれがこれからの大学生活に対してさまざまな思いを持っていることが伝わってきて、自分自身も1年生の頃を思い出すような感覚になりました。

また、児童館での学生ボランティアも新歓活動を兼ねて行いました。普段の活動に新生が加わることで、いつもとは少し違った雰囲気もありましたが、子どもたちと関わりながら自然に会話が生まれていたのが印象的でした。説明会だけでは伝わりにくい団体の空気感を、実際の活動を通して感じてもらったのではないかと思います。

さらに、活動後には新歓食事会も実施しました。ひつじぐもは学年や学部がかなり幅広く、普段あまり関わる機会のない人同士で交流できるのも、特徴の一つだと感じています。食事会では、授業や大学生活の話から活動の話までさまざまな会話が生まれており、新生にとっても、既存メンバーにとっても良い交流の機会になっていたように思います。



ゴールデンウィークが明けてからは、少しずつ新歓期間の空気も落ち着き、団体としても次の活動へ向けて動き始めています。今月は八王子ワイズクラブさんとの新歓イベントも控えており、新しい仲間とともに、これからの活動がさらに楽しみになっています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 東京 YMCA 便り

担当主事 西嶋健太

- 4月1日、「職員就業礼拝」をオンラインで開催し、職員約100名が出席した。古賀博牧師(日本基督教団早稲田教会／公益財団法人東京YMCA評議員会会長)に「ピッチの上だけではなく」と題して説教をいただいた。礼拝に続く「全体職員会」では、星野総主事と各事業部統括から挨拶と新年度運営方針の説明があり、新入職員代表者からも抱負が語られた。また、カンボジアウォーターセーフティープログラムの報告があった。
- 各学校の入学式が下記の通り行われた
  - ・社会体育・保育専門学校 4月2日 日本基督教団 霊南坂教会 新入生45名
  - ・国際ホテル専門学校 4月3日 日本基督教団 霊南坂教会 新入生75名
  - ・にほんご学院 4月6日 社会体育・保育専門学校 演習室 新入生54名
  - ・医療福祉専門学校 4月7日 くこたち市民芸術小ホール 新入生55名
- 2026年度より、新たに高校生を対象としたボランティア「ジュニアリーダー」の募集を開始した。月に一度開催している「定例野外グループ」の引率を大学生や社会人のユースリーダーと共に担当し、年間を通じて子どもたちのサポートやプログラムの進行を担う。
- 5月12日より、夏季キャンプ・スクール受付を順次開始する。水泳、英語、リミック、キャンプなどの各種プログラムを準備している。今回もフレンドシップファンドを活用し、経済的に困難なご家庭には所得に応じて参加費を援助する。
- 今後の主な行事予定
  - ・「東日本地区YMCA役員研修会」4月25日(オンライン)  
テーマ「子どものこころの育ちにYMCAはどのように寄り添うか」  
講師: 田中哲氏(児童精神科医)
  - ・「第35回チャリティーゴルフ大会」4月28日 PGM総成ゴルフクラブ
  - ・「早天祈禱会」5月7日(山手センター／オンライン)  
奨励: 星野太郎総主事
  - ・「第23回会員大会」5月23日 山手センター(オンライン配信あり)
  - ・「第21回世界YMCA大会」7月19日～7月25日(カナダ・トロント)

- 深悼 謹んで哀悼の意を表します。  
・山田利三郎氏(名誉会員・元東京YMCA監事)  
3月19日召天 享年98
- 感謝  
・一般財団法人日本宝くじ協会より、  
テント1張をご寄贈いただいた。

## 今月の例会報告

2026年5月第二例会・報告 長谷川あや子(書記代行)

日時:5月9日(土)18:00～19:00

会場:北野事務所小会議室①

出席:稲葉、並木真、長谷川、久保田、花輪、望月、並木信一、西嶋(8名)

〈議題〉

●中大ひつじくも新入生歓迎草刈り&BBQ(担当C班)

日時:5月16日(土)10:00～13:30

会場:高尾の森マクわくビレッジ(JR高尾駅北口バス9:05又は9:35)

会費:クラブメンバー1,500円 ビジター、ゲスト、メネット2,500円 中大ひつじくも500円

服装:草刈りが出来る服装(長袖、帽子)軍手はクラブで用意

草刈りの時の飲み物は各自で用意。

メンバーは名札持参

参加予定者:28名

メンバー:稲葉、長谷川、久保田、花輪、大久保、並木信一、山本(7名)

ビジター、ゲスト:加藤祐一(町田コスモス)、大輪匡史(元ワイズ)、渡邊敦(ひつじくもOB)3名

ひつじくも:1年生10名 2年生6名 3年生2名(18名)

プログラム

10:00 4階学習室

10:00～10:30 開会、オリエンテーション 参加者紹介

10:30～11:30 草刈り

11:30～13:00 昼食、BBQ

13:00～13:30 片付け

13:30 閉会、解散

●あずさ部第2回評議会収支報告

収入 48,000円 支出 43,447円 収支差益 4,553円 ※雑収入に入れる

●今後の予定

・東京西クラブ50周年記念例会 5月14日(木)13:30～  
出席:稲葉、久保田、長谷川

- ・東日本区大会 石巻 6月6日(土)  
出席:久保田、久保田佐和子、並木真、西嶋、長谷川
- ・6月第一例会 6月13日(土)18:00～ 北野事務所大会議室
- ・東京町田コスモスクラブ 30周年記念例会 6月27日(土)11:00～14:00  
出席:久保田、並木真、長谷川
- ・6月第二例会 6月27日(土)18:00～ 北野事務所小会議室

**5月ご誕生されたメンバー**

望月 隆珉さん 5月7日

望月 令子さん 5月25日

**あずさ部第2回評議会スタッフ**



山口あずさ部部長



開会祈禱・聖書朗読 並木信一ワイズ

